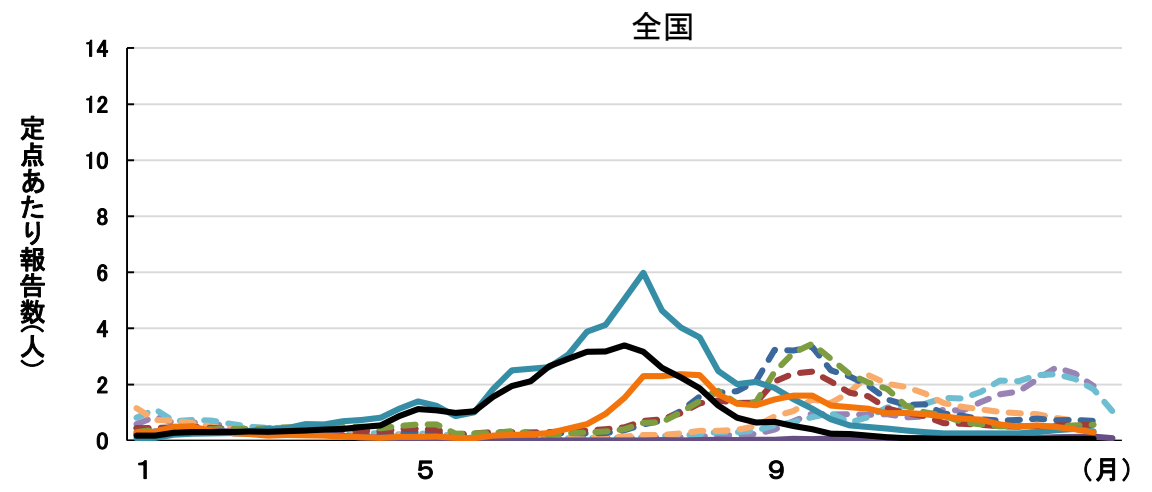
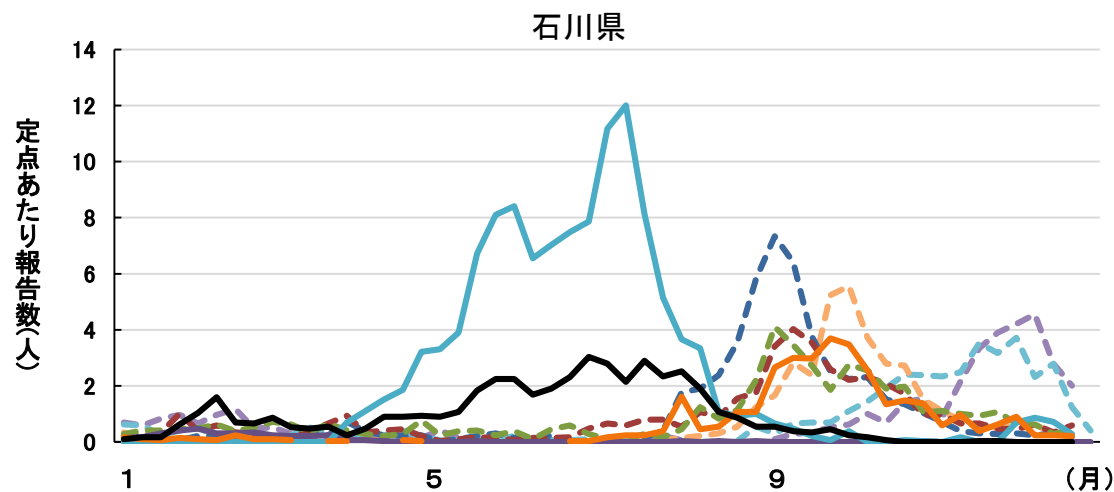
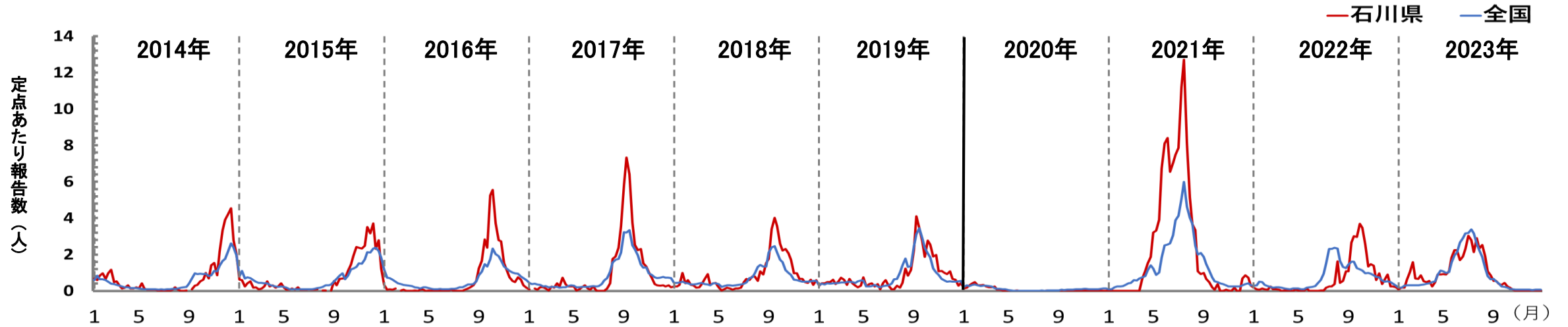


# 小児科定点感染症における 新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 発生前後の10年推移

(2014～2019年:発生前、 2020～2023年:発生後)

# 1. RSウイルス感染症

- COVID-19発生以降に流行時期に変化あり(季節性変動あり)

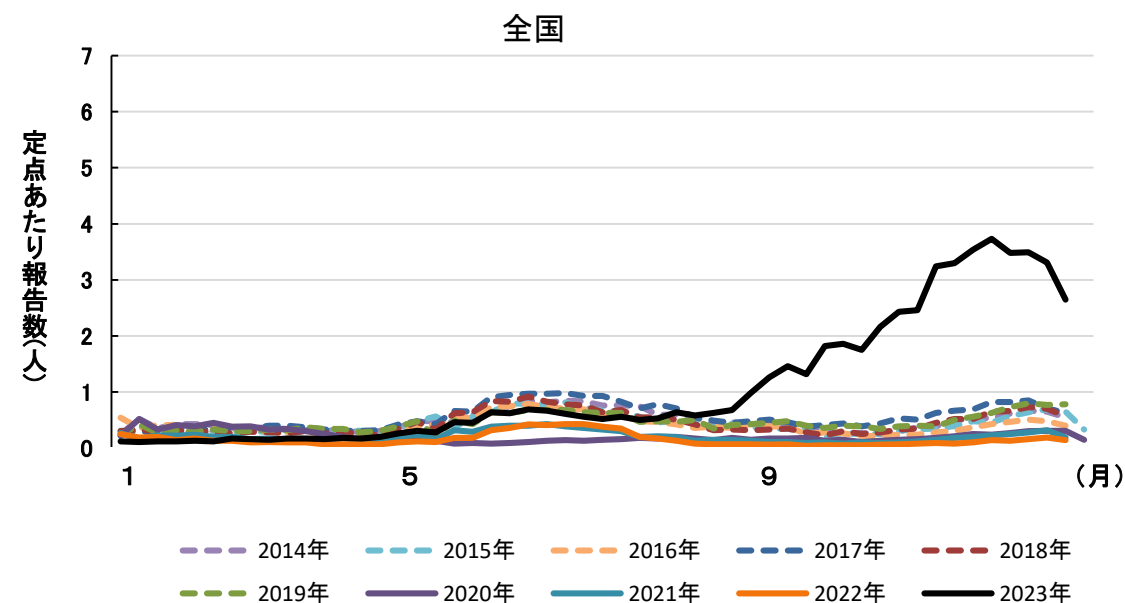
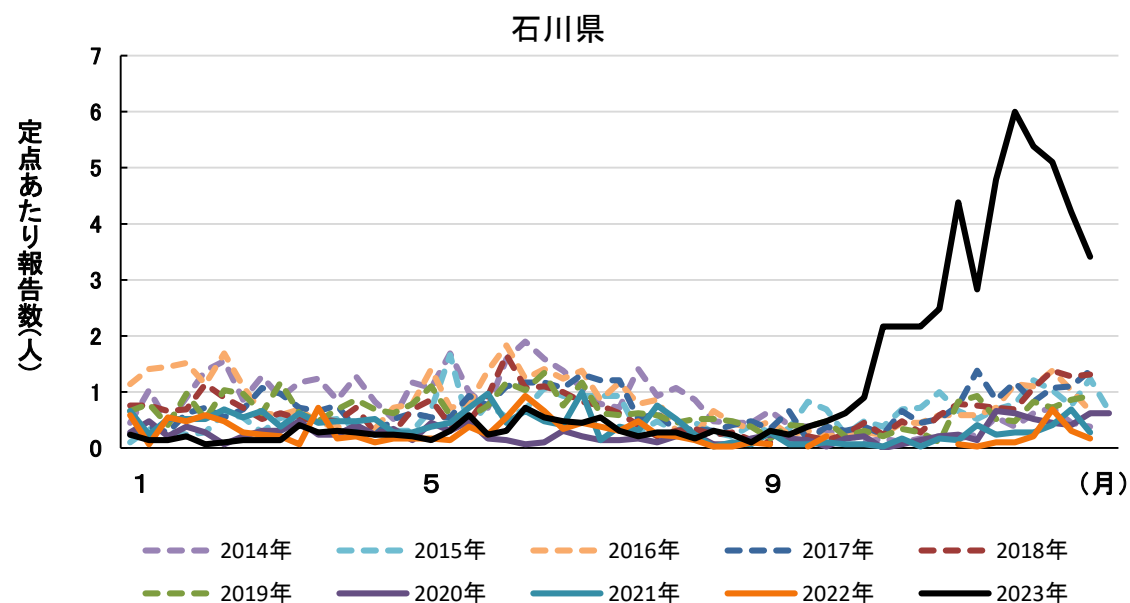
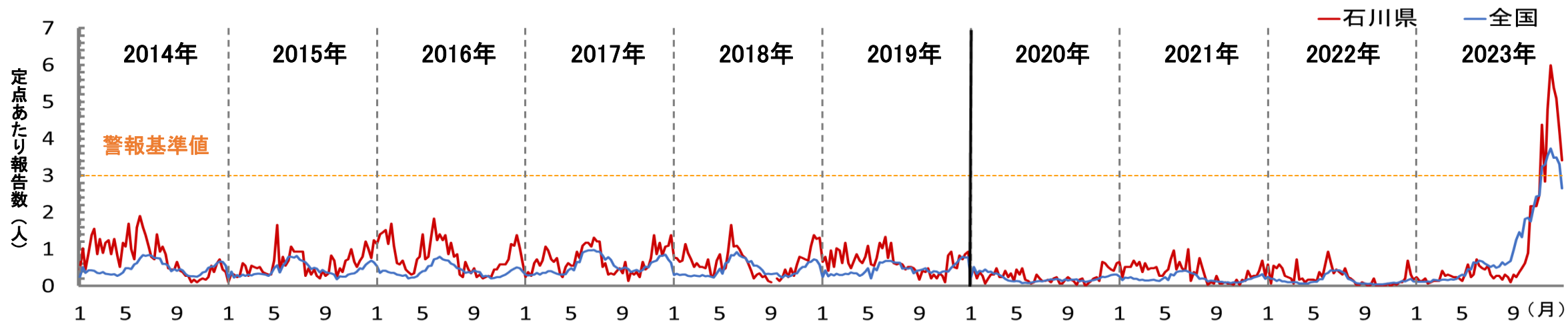


2014年 2015年 2016年 2017年 2018年  
 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

2014年 2015年 2016年 2017年 2018年  
 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

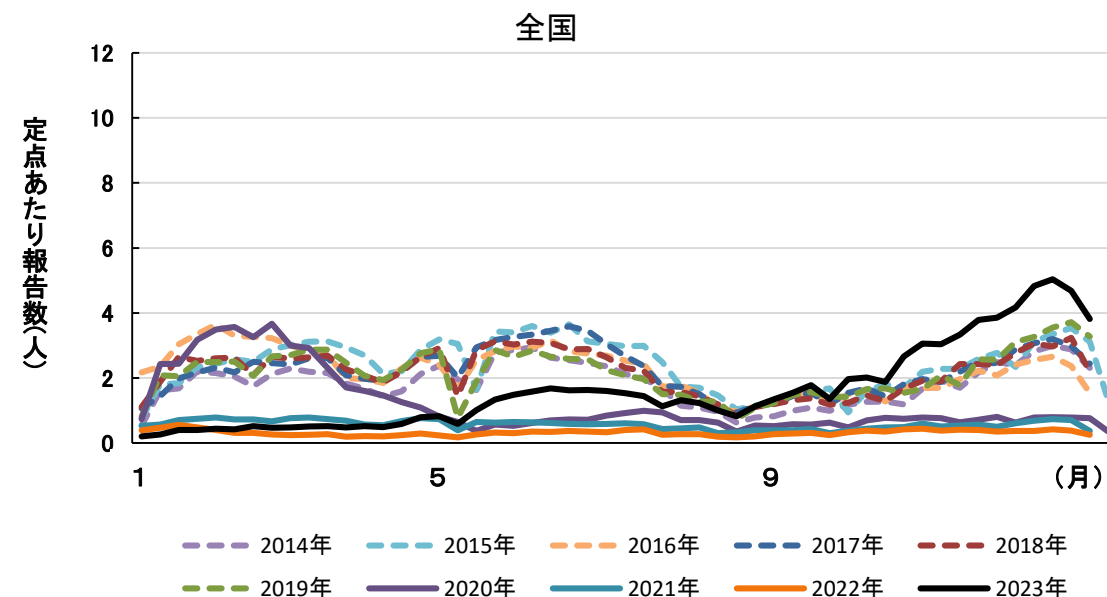
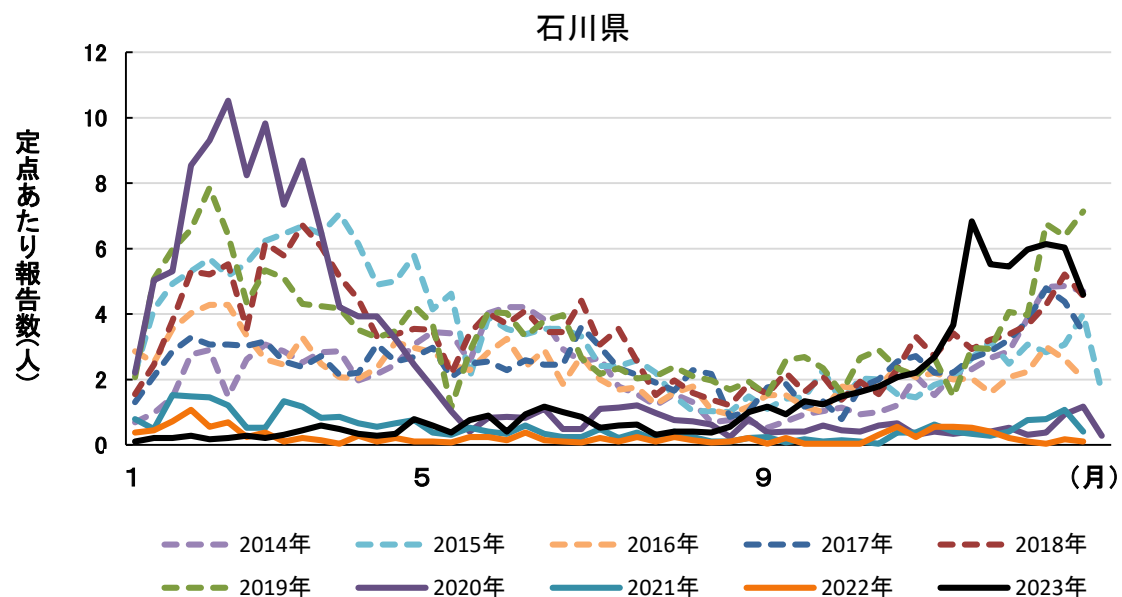
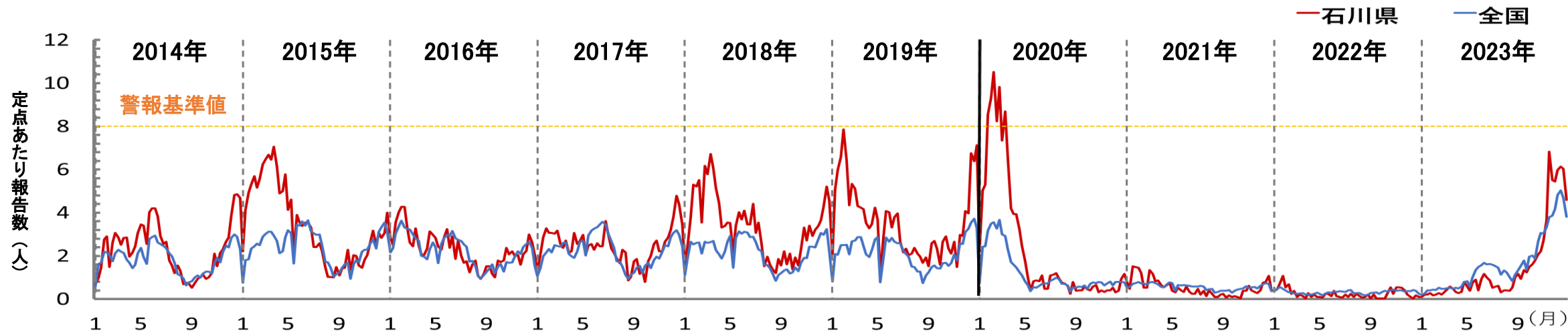
## 2. 咽頭結膜熱

- COVID-19発生以降に一旦減少し、2023年に大きく増加



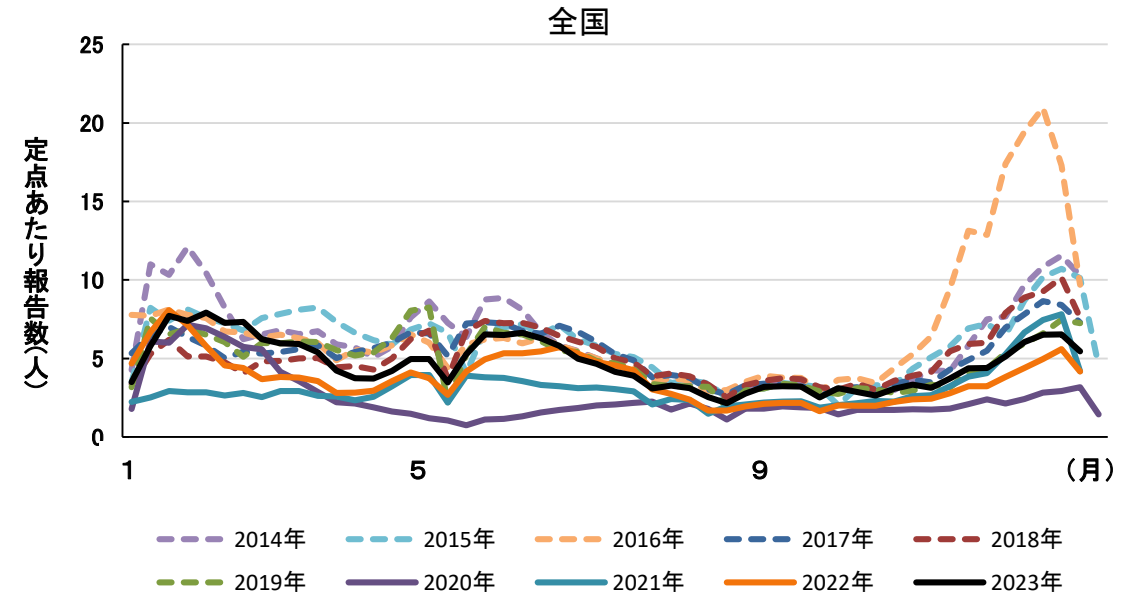
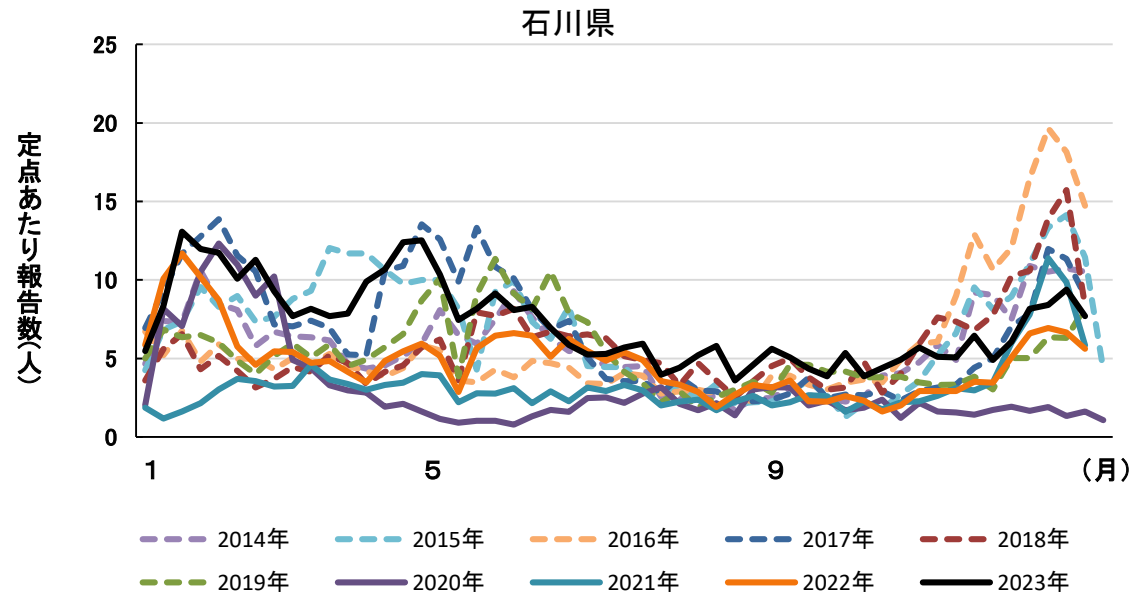
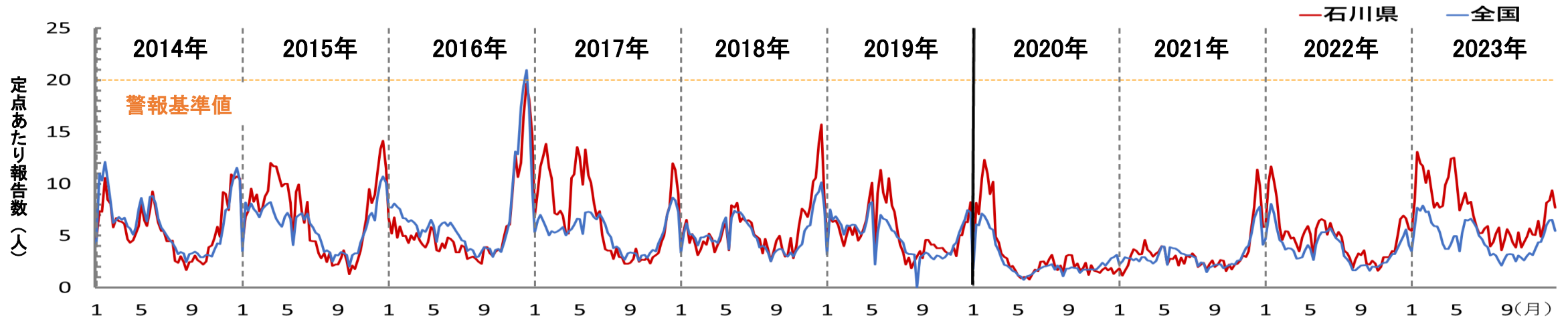
# 3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- COVID-19発生以降に一旦減少し、2023年に大きく増加



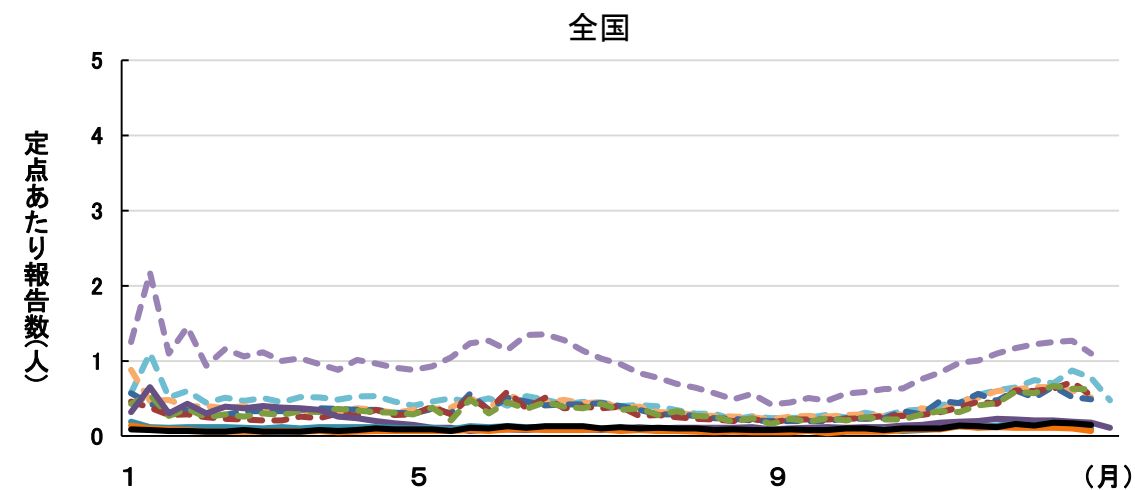
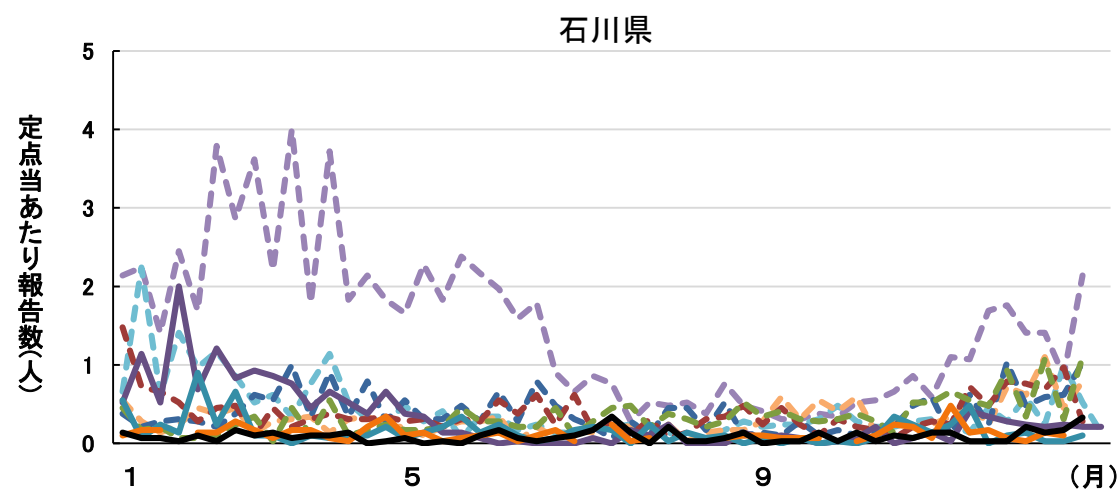
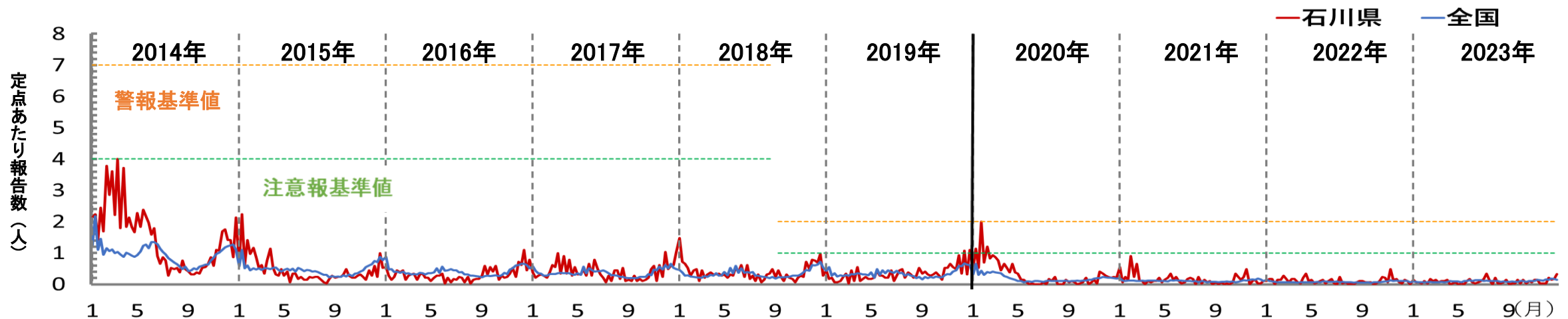
# 4. 感染性胃腸炎

- COVID-19発生以降に一旦減少し、2022年からほぼ例年どおり



# 5. 水痘

- 2015年のワクチン定期接種化以降減少していたが、COVID-19発生以降、更に減少

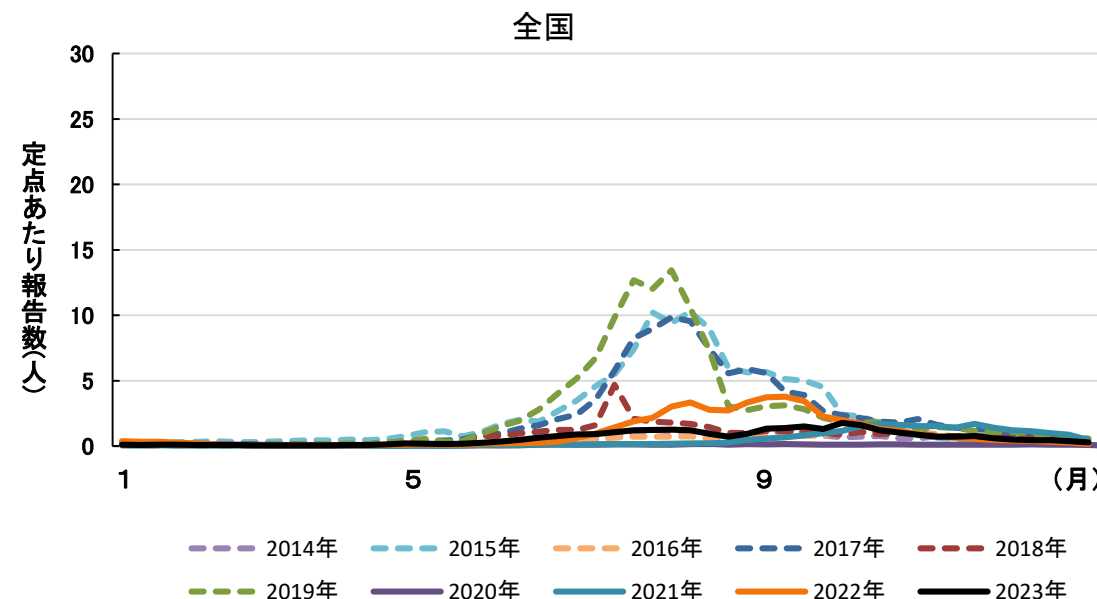
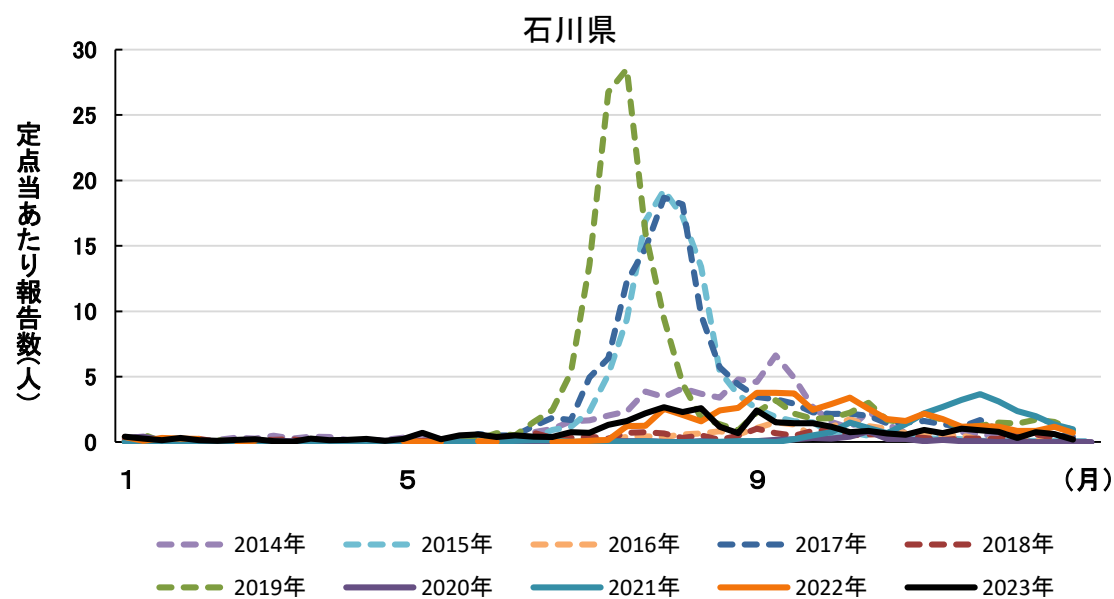
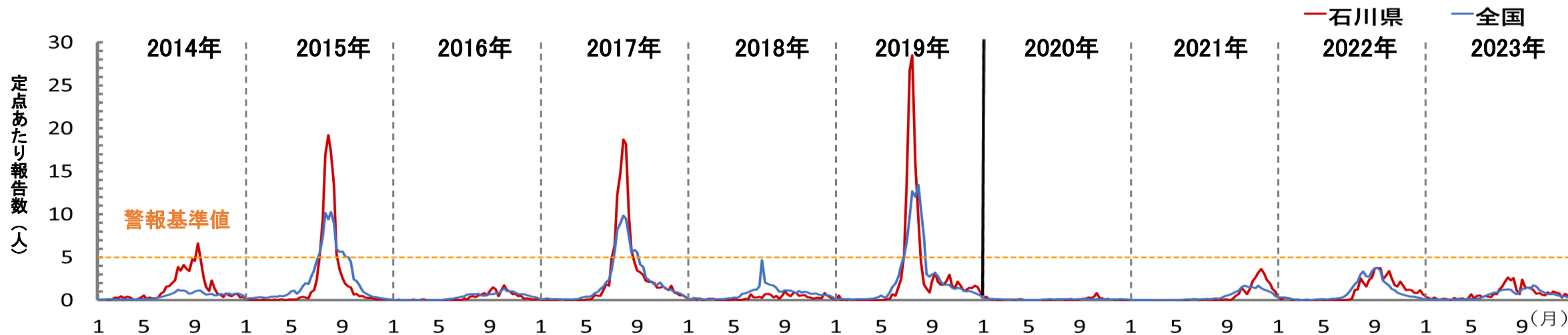


2014年 2015年 2016年 2017年 2018年  
 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

2014年 2015年 2016年 2017年 2018年  
 2019年 2020年 2021年 2022年 2023年

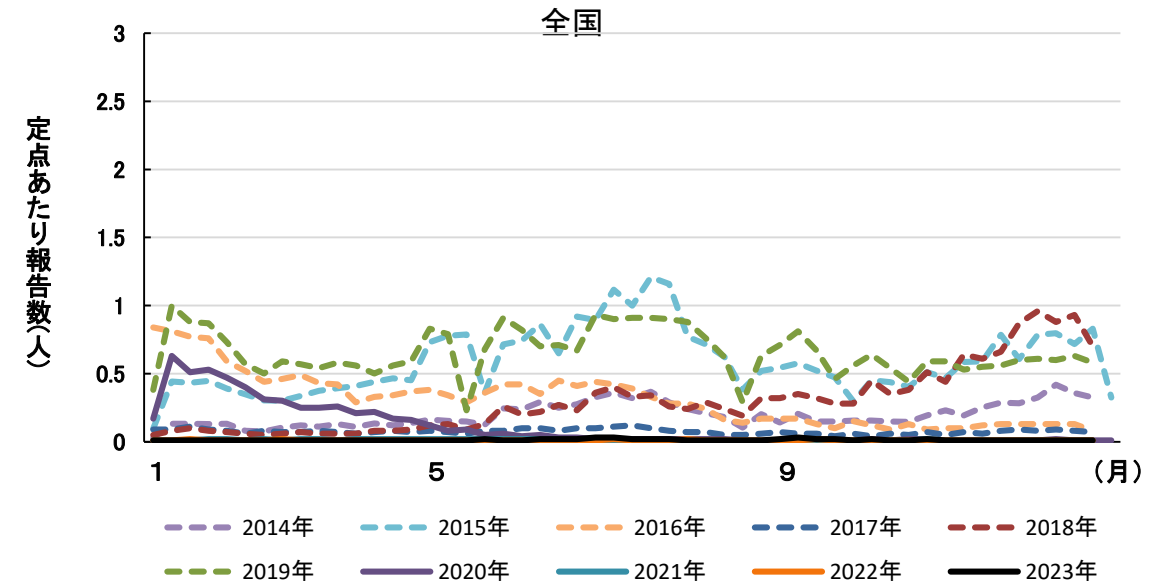
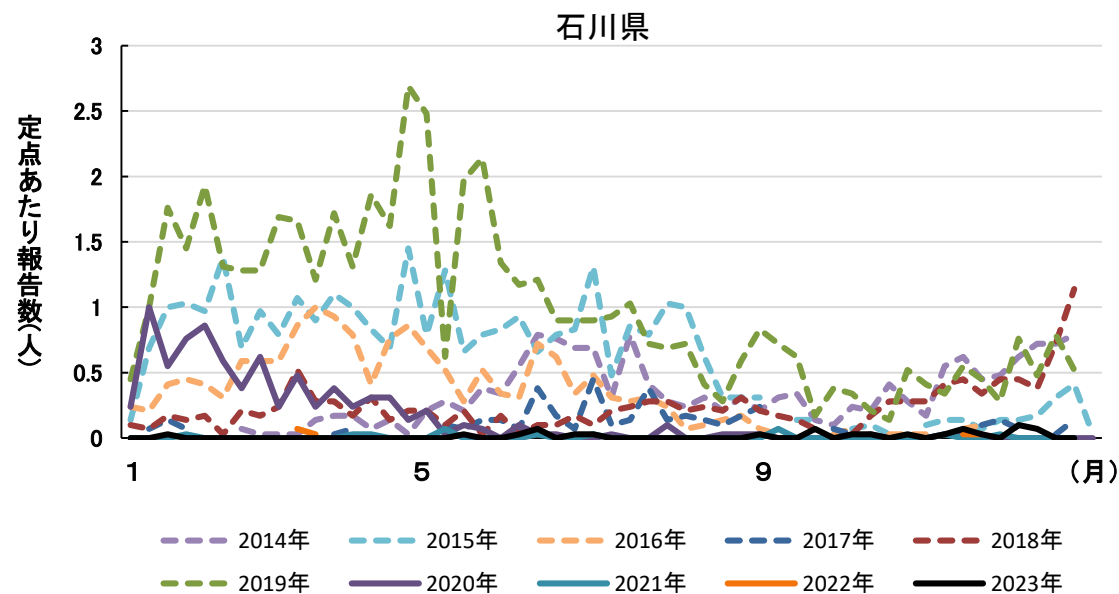
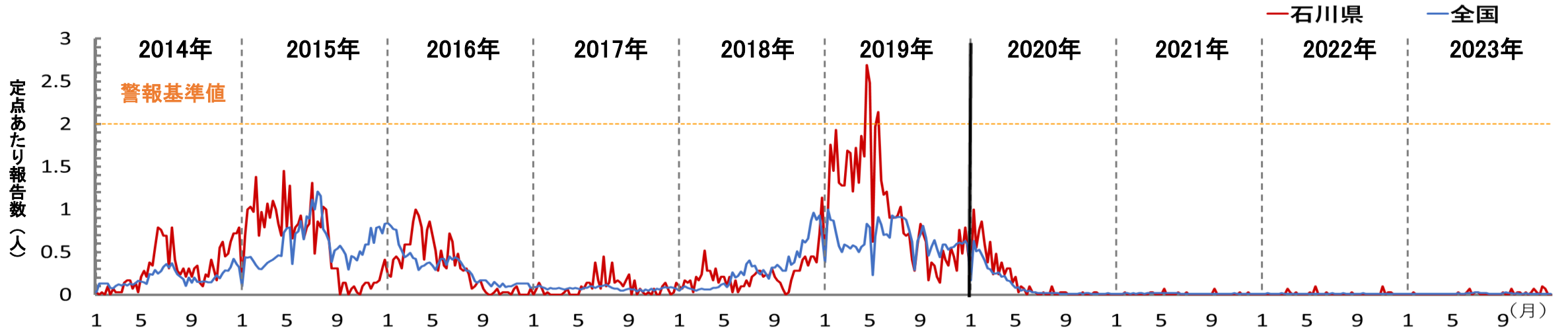
# 6. 手足口病

・COVID-19発生以降に、ピークの低下ならびに流行時期の変化あり(季節性変動あり)



# 7. 伝染性紅斑

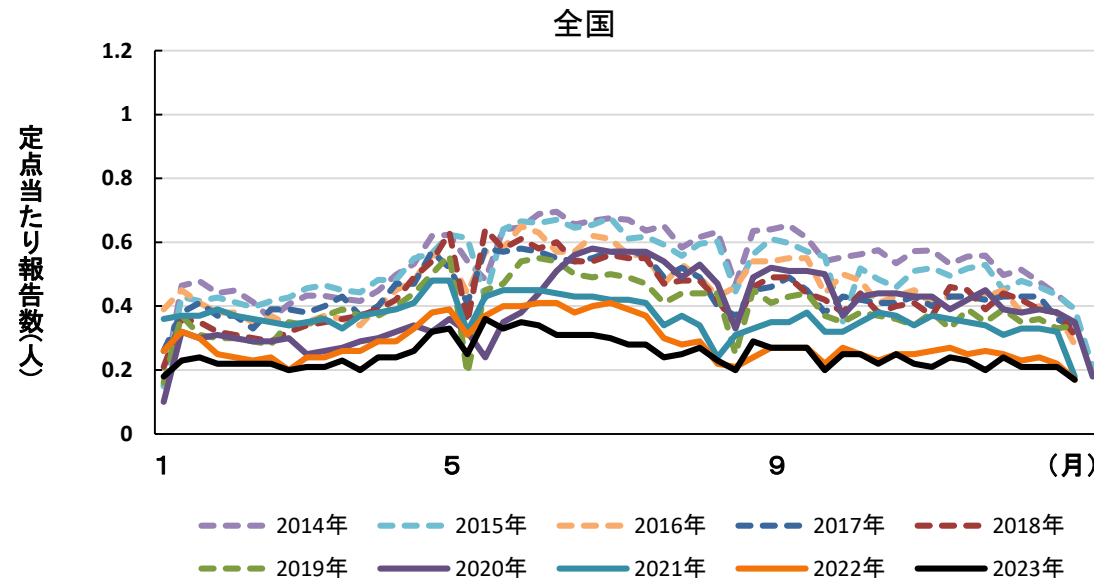
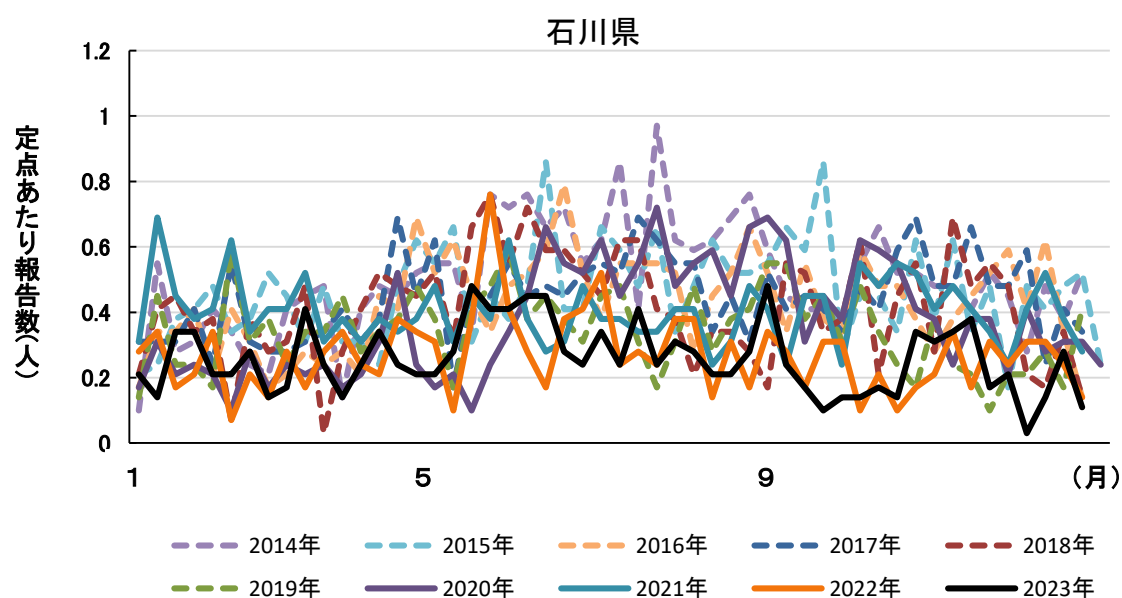
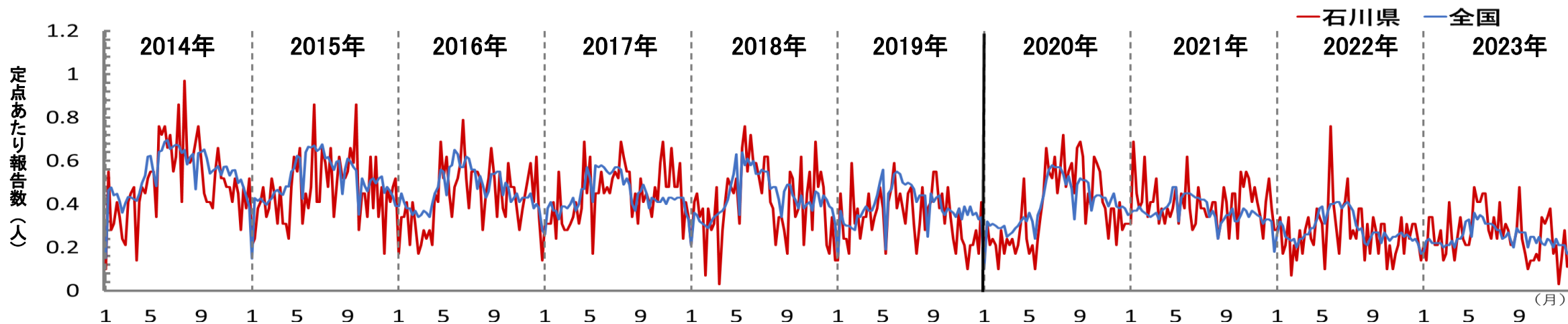
・COVID-19発生以降に流行なし





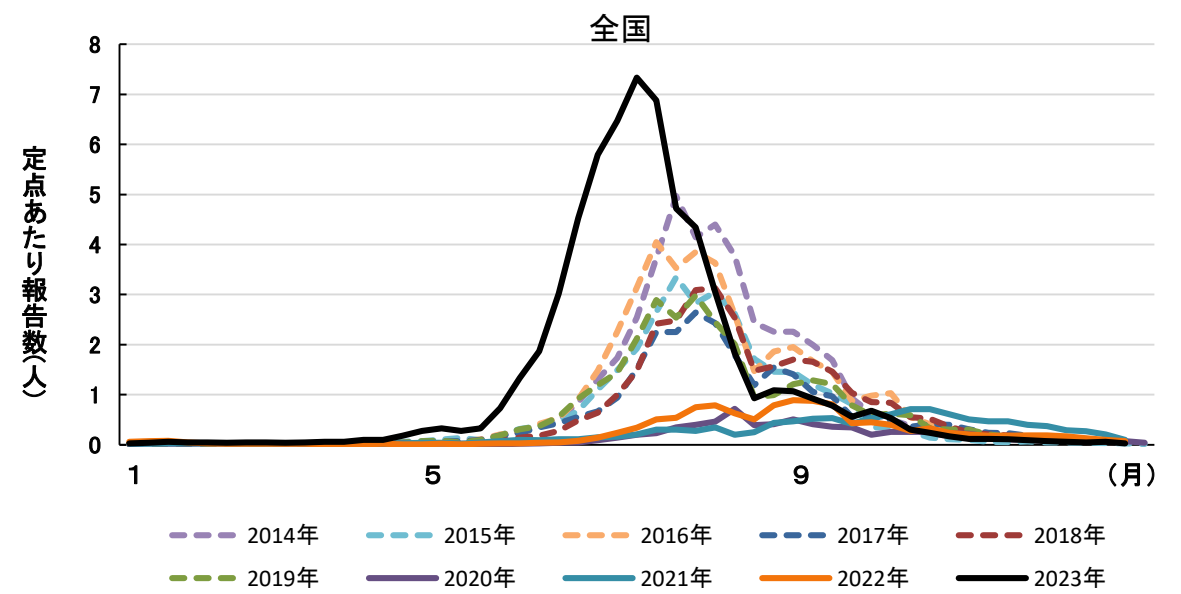
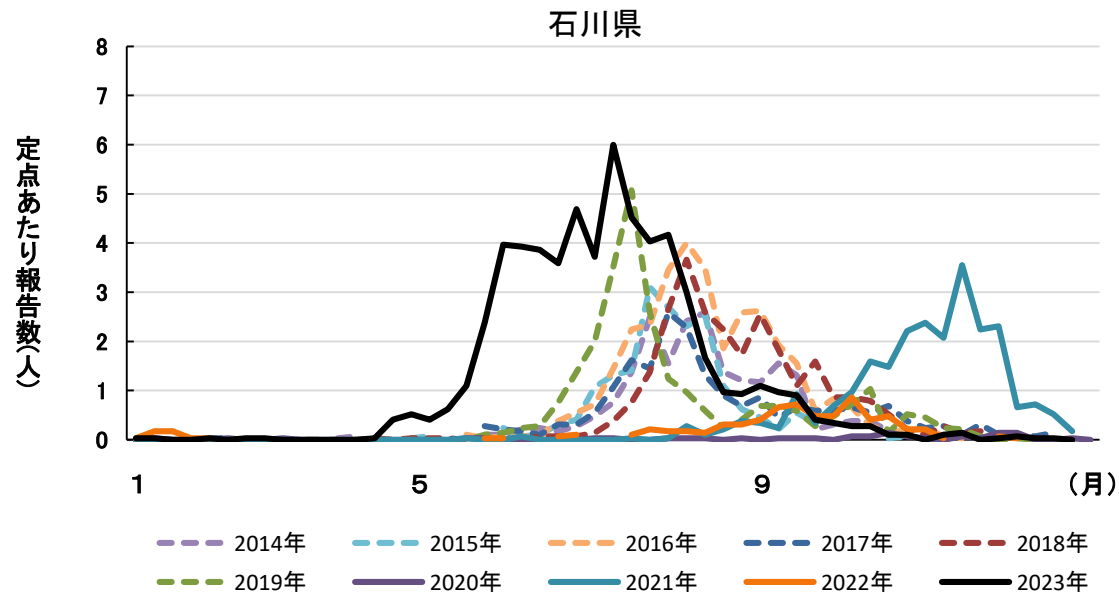
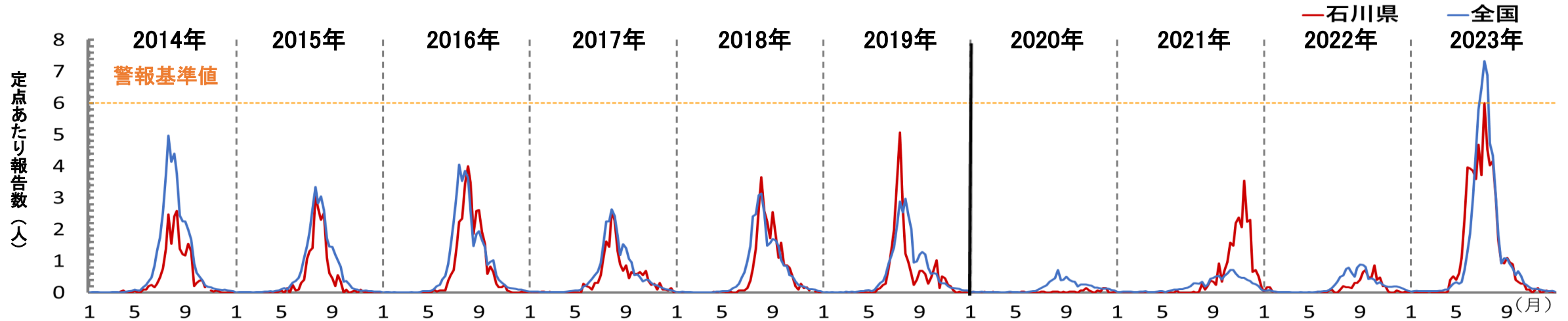
# 8. 突発性発しん

・COVID-19発生にほぼ影響なし



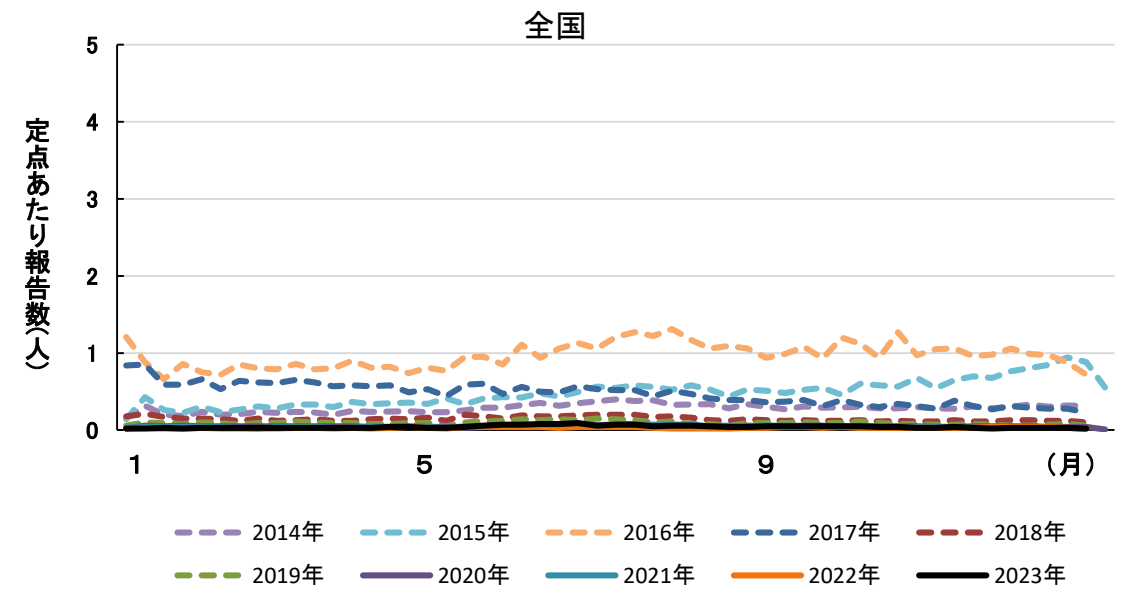
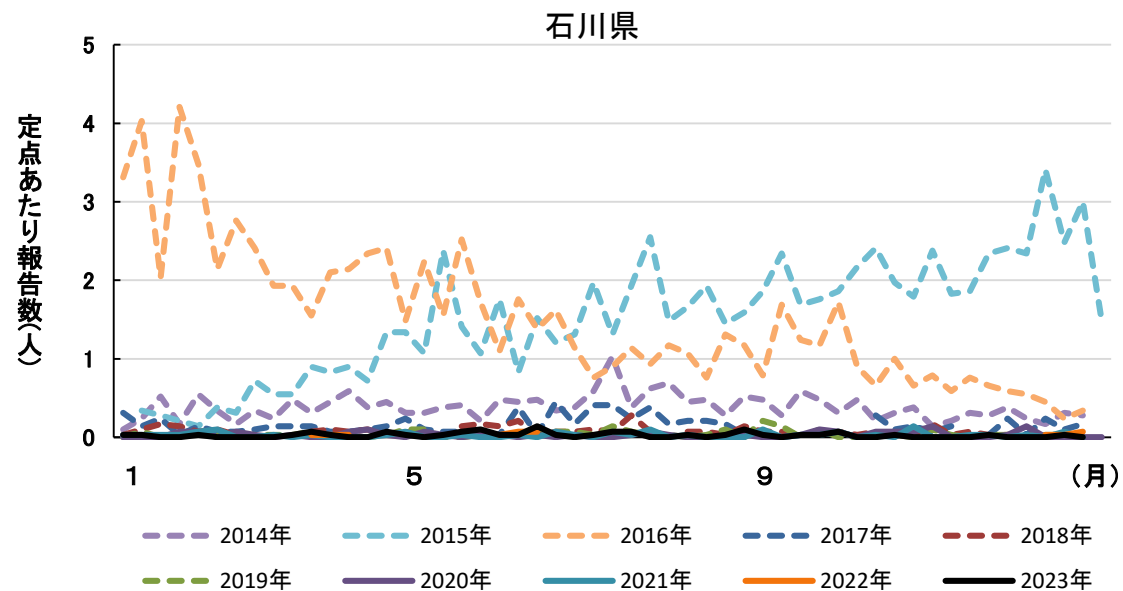
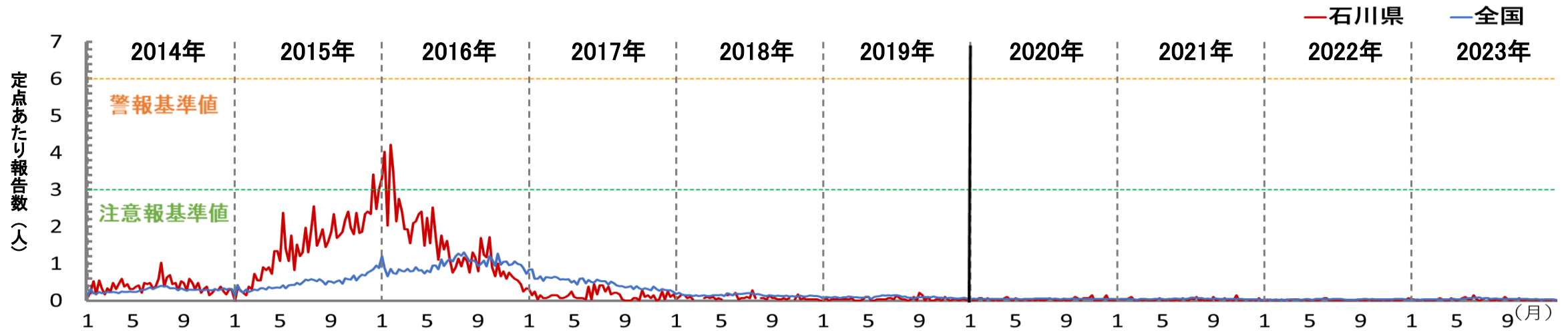
# 9. ヘルパンギーナ

・COVID-19発生以降に一旦減少し、2023年に大きく増加



# 10. 流行性耳下腺炎

・ COVID-19発生に影響なく減少、数年ごとの流行もなし



# まとめ

---

- (1) COVID-19発生以降に流行時期に変化あり(季節性変動あり)
  - ・RSウイルス感染症
  - ・手足口病
- (2) COVID-19発生以降に一旦減少し、2023年に大きく増加
  - ・咽頭結膜熱
  - ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
  - ・ヘルパンギーナ
- (3) COVID-19発生以降に一旦減少したが、2022年からほぼ例年どおり
  - ・感染性胃腸炎
- (4) COVID-19発生以降に、流行なし
  - ・伝染性紅斑
- (5) COVID-19発生に影響なし
  - ・水痘
  - ・突発性発しん
  - ・流行性耳下腺炎